

# 主体的な学びを高める外国語活動の授業づくり —自己評価の工夫—

奈良市立佐保小学校教諭 下 浦 真由美

Shimoura Mayumi

奈良市立伏見南小学校教諭 小 川 勇 貴

Ogawa Yuki

指導主事 陀 安 龍 也

Tayasu Tatsuya

指導主事 堀 家 敦

Horike Atsushi

## 要 旨

児童が自らの言語活動を評価することによって、主体的に外国語を学ぶ意欲を高める授業づくりについて研究を行った。児童が目標を明確に認識することで具体的に見通しをもって学習活動を行い、振り返りシートを用いた自己評価により自らの変容を客観視できるようにすることが、主体的に学習に取り組む意欲につながることが分かった。

キーワード： 外国語活動、自己評価、学習意欲、振り返りシート、ループリック

## 1 はじめに

『小学校学習指導要領』では、外国語活動の目標に「コミュニケーション能力の素地を養う」ことが挙げられており、その内容に、「コミュニケーションを図る楽しさを体験すること」や「コミュニケーションを図ることの大切さを知ること」とあるように、言語活動が重視されている。

また、『小学校学習指導要領解説 総則編』には「指導に当たって、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れ、自主的に学ぶ態度をはぐくむことは、学習意欲の向上に資する」と記されており、児童が学習の見通しを立てたり、自らの学習の状況を振り返る活動を通して自己評価（以下「自己評価」という。）をしたりすることと学習意欲の関連が示されている。

図1及び図2は、平成27年度の小学校全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、学習目標に関する質問と振り返りに関する質問に対して、回答した学校及び児童の割合を示したものである。奈良県（公立）は、学校質問紙、児童質問紙ともに、いずれの項目についても「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」という肯定的な回答の割合が全国（公立）に比べ、相対的に低い。

以上のような状況を踏まえ、自己評価と学習意欲との関連に着目し、研究を進めることとした。国立教育政策研究所は平成23年に「小学校外国語活動における評価方法等の工夫のための参考資料」で、評価方法の工夫改善について「各学校では、各教科の学習活動の特質、評価の観点や

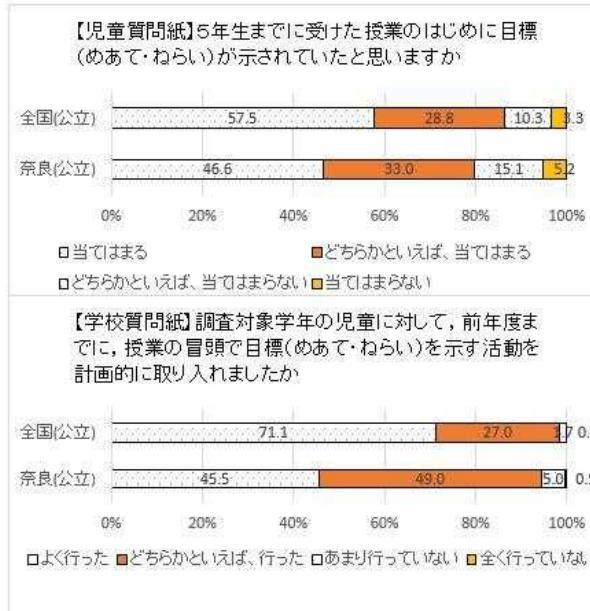


図1 目標に関する質問

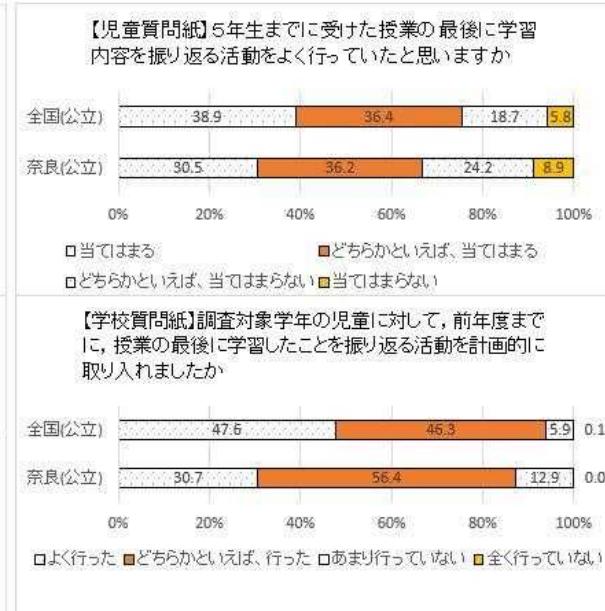


図2 振り返りに関する質問

評価規準、評価の場面や児童の発達段階に応じて、観察、児童との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における児童の学習の状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要である。上記のような評価方法に加えて、児童による自己評価や児童同士の相互評価を工夫することも考えられる。」と述べている。また、記述式の自己評価のための振り返りカードを活用した事例を提案している。

本研究では、学習意欲の向上につながる自己評価の方法として、児童が見通しを立てて活動を行うために、ループリックを取り入れる工夫が効果的であると考えた。ループリックとは、達成の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語からなる評価基準表のことである。ループリックを活用した授業について寺嶋・林(2006)は、「学習者の活動が多い授業であっても目的意識が明確になり、学習過程での内省を促し、学習への意欲や自己効力感、メタ認知能力等が高まることが予測される。」と述べている。また、田中(2008)は「ループリックは伝達や検証の可能性に支えられた『信頼性』によって、評価基準の客觀性を保証するもの」と述べている。ループリックを取り入れることにより、児童の客觀的な自己評価を成立させ、評価規準(目標規準)とともに、その判断の尺度となる評価基準(達成基準)を提示することが目標の可視化につながり、より明確な見通しを児童にもたらすことができると思った。このことから、1学期はループリックを用いた自己評価の研究を行い、ループリックを完成させることにした。

また、振り返り活動において、ループリックだけではなく記述式も活用し、両者を併用することにした。その理由の一つは、ループリックの指標を用いて客觀的に振り返らせるだけでなく、児童がもっている個々の思いを具体的に記述させながら振り返らせることにより、外国語活動の内容である「コミュニケーションを図る楽しさ、大切さ」や「言語や文化に関する気付き」を主体的に意識させ、より多角的に自己評価を行わせることができると考えたからである。もう一つの理由は、個々の児童がループリックに現れない目標を記述することでき、指導者がそれらの記

述に対し児童の成長を認めるコメントを返して次時への意欲を喚起したり、新たな目標を設定するためのアドバイスができると考えたためである。

以上のことから、本研究における研究仮説を1学期末に次のように設定した。

個々の児童に目標・活動の見通しをより具体的にもたせ、ループリックと記述式を併用した自己評価を行わせることによって、学習意欲の向上につなげることができる。

## 2 研究目的

外国語活動における児童の学習意欲を高めるため、言語活動において単元の学習内容の見通しをもたせたうえで自己評価を工夫し、児童の意識の変容について検証する。

## 3 研究方法

### (1) 研究期間

平成27年5月～12月

5月～7月 学習意欲の向上につながる自己評価の研究

ループリックの作成

9月～11月 ループリックと記述式を併用した自己評価の研究と授業実践

12月 データの分析

### (2) 実施校及び対象児童

奈良市立佐保小学校 第6学年 児童25名

奈良市立伏見南小学校 第6学年 児童28名

### (3) 検証方法

児童に、ループリックと記述式を併用した振り返りシートを活用した自己評価を行わせる授業を実施し、児童の学習意欲の変容について、児童対象の質問紙調査や児童観察から分析する。

## 4 研究内容

研究を実施した2校がある奈良市では、本年度から全市で展開されている「奈良市の中一貫教育」に伴い、小学校第1学年から9年間のカリキュラムに基づく「外国語科」が設置されている。研究実施校においても、「外国語科」として実践を行っているが、本研究においては、全て「外国語活動」と表記している。

### (1) 奈良市立佐保小学校の取組

#### ア 昨年度までの自己評価について

佐保小学校では、外国語活動における自己評価を振り返りシートを用いて行ってきた。1時間の活動、あるいは1単元を通した活動の中で、児童の学びや指導者のねらいの達成度がより明確になるようなシートを作成し、毎年改善を図りながら今に至っている。また、記述させた振り返りシートに毎回コメントを書いて児童に返し、それを綴らせ1年間の蓄積ができるようにしている。

#### イ 今年度の実践

#### (7) 課題の整理

これまで使用してきた振り返りシートは、1時間の活動、または1単元の活動全体における、

児童自身の外国語活動に対する意欲や指導者のねらいの達成度を測る一つの指標として作成していた（図3）。振り返りシートを1年間蓄積することにより、児童は、自分の外国語活動においての伸びや変容を見て取ることができた。しかし、児童が具体的に自分の学習活動を振り返ることができるものにはなっていなかった。

その原因としては、単元における児童自身の目標の明確化がなされていないことや、その単元では何を学ぶのかについて見通しがもてていないことが考えられた。

5月に実施した第2単元の活動（表1）時の振り返りシートでの、「この単元であなたはどんなことを学びましたか。」という質問に対する児童の主な記述は以下の通りである。

外国語学習　ふり返りシート Name ( )			
① 今日の外国語の学習は楽しかったですか。ちかいものに○をつけてその理由を書きましょう。			
<input type="checkbox"/> とても楽しかった <input type="checkbox"/> 楽しかった <input type="checkbox"/> あまり楽しくなかった <input type="checkbox"/> 楽しくなかった <small>(理由)</small>			
② 今日の学習をふりかえって書きましょう。 バースデーカードを作る活動で気づいたこと・思ったこと			
③ この単元であなたはどんなことを学びましたか。			

図3 振り返りシート

- ・がんばって練習したら難しい単語も覚えられた。
- ・世界はいろいろだとわかった。行事が行われる時期に、意外なものもあった。
- ・友だちの言うことを聞こうとがんばれた。
- ・バースデーカードは相手のことを知らないと作れないので、相手のことを知ることが大切だ。
- ・発音をしっかりと練習できた。

下線部のように、児童が単元のねらいに対応した記述をしていることから、児童は、活動のねらいを概ね理解できていると見て取れる。しかし、主体的に活動を振り返り外国語を学ぶ意欲を高めているか、という点においてまだまだ十分とは言い難い。そこで、次単元の活動では、第1時の活動時に、単元全体の活動の見通しをもたせた上で、その時間の振り返りとともに、単元全体を貫く個々の目標を立てさせ、記述させることにした。

表1 本単元のねらい

単元名 : Hi, friends! 2 Lesson 2 When is your birthday? (2015年5月)	
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>• What color is spring for you? 自分にとっての春の色、その理由を英語で伝え合う。</li> </ul>
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>• What is the month of this event? 奈良市や世界の行事が何月に行われているかを知り、身近な地域や世界の文化にふれる。</li> </ul>
第3時・第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 月の名前、日付の言い方、誕生日の尋ね方や答え方に慣れ親しむ。</li> </ul>
第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友だちへのバースデーカードをつくるために、既習の表現を使って、積極的にインタビューし合う。</li> </ul>

#### (イ) 1学期の実践

##### a 目標の明確化

次に実践を行った単元について毎時の活動のねらいは以下の通りである（表2）。

表2 本単元のねらい

単元名 : Hi, friends! 2 Lesson 3 I can swim. (2015年6～7月)	
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動詞の英語表現を知るとともに、ジェスチャーなどの非言語コミュニケーションのよさに気付く。</li> </ul>
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・can を使った「できる」「できない」の表現を知る。</li> </ul>
第3時・第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツや楽器の名を表す英語表現に慣れ親しむとともに、英語と日本語の発音の違いに気付く。</li> </ul>

	・can を使ってできることを尋ねあう表現に慣れ親しみ、習った表現を使って活動する。
第5時	・既習の表現を使って互いにできることを尋ね合い、積極的にコミュニケーションを図る。

本単元では、全5時間のうち、第1時は「文化や言語に関する気付き」、第2時～第4時は「外国語への慣れ親しみ」、第5時は「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」をそれぞれ中心としたねらいとし、活動後の振り返りシートへの記入を第1時、第4時、第5時に行うこととした（表3）。第2時以降、授業の最初にその時間の活動を示し、児童一人一人に個々の目標を必ず確認させてから活動に入るようにし、振り返りシートを記述させた後には、必ずコメントを書き込み、児童にフィードバックするようにした。その際、「○○によく気付いたね」や「ジェスチャーを上手に使って、伝える努力をしていたね」等、児童の記述に対して肯定的なコメントや声かけを心がけた。

表3 本単元の振り返りシートの内容

	振り返りシートの項目	項目設定の意図
共通	①本時を振り返って楽しかったか。また、その理由	①どの活動でも必ず記述させる内容である。漠然と楽しかったか、楽しくなかったかを振り返らせるのではなく、「何が」という点を記述させることにより、ねらいにあった「楽しさ」を味わえたかどうかを見取る。
第1時	②ジェスチャーをたくさん使った活動で感じたこと。 ③この単元で自分はどんなことを目標に活動しようと考えるか。	②本時の単元のねらいの一つである「非言語コミュニケーション」のよさに気付いたかを見取る。 ③前単元の実践における課題を受けたものである。個々の目標を明確にすることにより、各時間の活動を主体的に振り返ることができ、次時への目標につなげる。
第4時	②本時の活動で自分が「しっかりやれた」と思うこと。 ③目標の達成に向けてがんばれているか。（3段階評価で）	②児童に個々の目標を意識して書かせる。 ③各児童の達成状況を確認させ、次時へつなげる。
第5時	②本時の活動で自分が「しっかりやれた」と思うこと。 ③この単元の最初に立てた目標は達成できたか。（文章記述）	②最終時の活動のねらいである「英語を使ったやりとりができたか」を意識させて自己評価を行わせる。 ③単元全体を振り返り、各児童が立てた目標が達成できたかを自己評価させる。

第1時に、この単元では最終時にどのような活動を行うのか、また、最終時を目指して各時間の活動でどんなことを学ぶかについて、以下の3点を児童に伝えたうえで振り返りシートの③を記入させた。

- 最終時には、互いに自分のできることを尋ねあう活動を行うこと。
- 動きを表す表現や、スポーツ・楽器の名前の言い方、can を使った「できる」「できない」「できますか」等の表現を学ぶこと。それらを練習して言えるようにすること。
- ジェスチャーを多く取り入れた活動を行うこと。

この結果、児童一人一人が立てた目標は、外国語活動の目標の観点や指導者がもつ単元のねらいに概ね合致する記述が見られるようになった。表3の項目のうち、第1時の③について主な記述を以下に示す。

- ・一つでも多くの言葉を覚えること。そのために毎時間いっぱい聞いて発音する。
- ・A L Tの発音をよく聞く。それをしっかりまねする。
- ・友だちとたくさん話をする。そのときは表情に気を付ける。
- ・とにかく大きな声で練習する。話す。
- ・みんなとの関係を深くして、笑顔で話す。
- ・ジェスチャーをいっぱい使って友だちと話す。
- ・相手に分かるようにはっきりとしゃべる。

本学級の児童の記述の中で最も多かったのは、「覚える」「言えるようになる」という目標であった。小学校外国語活動では、単元使用表現の完全な定着は求められてはいないものの、児童の中には、「単語や表現を自分のものにしたい」「正しく言えるようになりたい」という思いが、指導者が感じていたよりも強いことが分かった。

第4時の振り返りシートでは、第1時に設定した各自の目標に対しての振り返りを記述させたところ、以下のような記述が得られた。

#### 児童のシートより

	(第1時③に記入した目標)	(第4時②の記述)
A児	いつもがむしやらに大きな声で話す。	→ 前に出て大きな声で言えた。
B児	毎回一人でも多くの人と話す。	→ 目標を意識してできるだけ多くの人と話した。
C児	一つでも多くの単語を覚えて、そのため練習でしっかり発音する。	→ 練習のとにかくいっぱい発音できた。
D児	相手に分かるようにはっきりと話す。	→ 先生の発音をよく聞いていっぱい練習したから自信をもってはっきりと話せた。
E児	発音をよくして話したい。	→ A L Tの発音に近づけるように、何度も発音してみた。そうしているうちに、発音が変わったと思う。
F児	笑顔を多く友だちとたくさん話していく。	→ 人の顔をしっかり見て笑顔で会話できた。

第5時の最終時に、単元全体の活動を振り返らせ、児童一人一人が第1時に立てた目標が達成できたかを自己評価させた。③に児童が書いた自己評価を見てみると、全ての児童が「達成できた」と記述していた。

また、児童個別の変容として、外国語活動に苦手意識があるため自信をもちにくく、これまでの振り返りシートに「うまく言えない」、「難しい」と記述していたG児に着目した。G児は、自分の目標を明確にすることで「いつもよりがんばり、目標は達成できた」と自己評価し、振り返りシートには以下のようないくつかの目標を示されたことと学習意欲との関連を示す記述をした。

### G児の記述

- (目標) 一つでもたくさんの英語を覚えられるようにしたい。そのために発音をしてたくさん言ってみる。
- (最終時の記述) 目標は達成できた。いつもより、達成するためにがんばったから。

### b 単元の活動を終えて

1学期の活動で児童が記述した振り返りシートは全てファイリングさせ、児童に自分の成長を感じさせることができるようにした。単元の活動に見通しをもたせた上で、個々の目標を立てさせ、自己評価を行わせることは、活動への意欲を高めるのにある程度有効な手立てであったと言えた。また、児童の個々の目標を明確にすることが、指導者がねらいを達成するために具体的にどのような活動を組んでいけばよいのかを明確にすることにつながり、より充実した活動づくりができると感じた。しかし、これまで試みてきたことは、目標を立てるまでの指標が曖昧で、達成度を測る基準も児童それぞれであり、どちらも漠然としすぎているという反省点が残った。児童が活動の中で「どのような姿」を目指せばよいのかをもつとはっきりさせることでより意欲を向上させることができるのではないかと考え、次単元では、ループリックに基づいた目標を立てさせた上で実践を行い、ループリックと記述を併用した自己評価をさせることにした。

### (4) 2学期の実践

#### a 目標の明確化

この単元は、県小学校外国語活動研究会6年部会にて作成された単元計画を参考に構成した。毎時の活動のねらいは以下の通りである（表4）。

表4 本単元のねらい

単元名：Let's go to our dream country! （2015年9～10月）	
第1時	・世界遺産を通して、世界にはさまざまなよさがあることに気付く。
第2時・第3時	・国名や行きたい国を尋ねあう英語表現を知り、慣れ親しむ。 ・“I want to ~.”を使った「～したい。」を表す表現に慣れ親しむ。
第4時	・“I want to ~.”を使った「～したい。」の表現を知り、練習する。
第5時	・理想の国をつくり、既習の表現を使って紹介する練習をする。
第6時	・自分たちの創った国に来てもらえるような紹介をしたり、自分がしたいことをリクエストしたりしながら積極的に友だちとやりとりをする。

○ 単元の終わりには、自分たちの理想の国づくりを構想して紹介したり、紹介された理想の国に対する自分のリクエストを行ったりする活動を行うこと。

さらに、前単元までの課題を受けて、個々の児童が目指すものがより具体的になるように、「この単元で達成したいこと」を提示し、第1時に自分の努力目標を立てさせた（図4）。

### b ループリックの活用

この単元ではループリックを取り入れた（表5）。全6時間のうち、第1時は「言語や文化に関する気付き」、第2時～第5時は「外国語への慣れ親しみ」、第6時は「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」をそれぞれ中心としたねらいとし、活動を組み立てた。振り返りシートは、その単元のループリックに対するS～Cの達成度と、各自の主観であるが個人の努力目標に対する達成度（%）が記入できるものにした。ただし、自己評価することそのものが活動の目的にならないように、短時間で記述できるような内容にした。

表5 本単元で使用したループリック

#### Let's go to our dream country!

	達成したいこと	S	A	B	C
伝えあい	○進んで話しかけたり答えたりしようとできる。	あいさつの言葉を大切にして、表情に気をつけて伝え合いができるいる。 誰とでも進んで話したり、反応をしながら聞いていたりできている。	できるだけ多くの人に自分から進んで話しかけたり、相手の顔を見て、うなずくなどの反応をしながら聞いたりできている。	習った表現を使って話しかけたり答えたりできている。	自分から進んで話しかけることができない。
	○伝えたいことが相手にしっかり伝わるように自分なりに工夫できる。	表情豊かに、言葉やジェスチャーなどを使って相手に興味を持たせるよな説明の仕方を工夫できている。 相手の質問の答えだけでなく、おすすめポイントをさらに付け加えるなどして答えている。	自分たちの国について英語表現を丁寧に使い、ジェスチャーを加えて説明したり、相手の質問に対してはっきりと答えたりできている。	自分たちが考えた表現を相手に伝えたり、相手の聞きたいことに答えたりできている。	理想の国について紹介できていない。
表現	○この単元で使う英語の表現を練習して発音できる。	Where do you want to go? I want to ~. You can ~. の音の特徴をよく聞き取り、それらをまねて適度な速さで発音することができている。	Where do you want to go? I want to ~. You can ~. の音の特徴をよく聞き取り、それらをまねて発音することができてい	Where do you want to go? I want to ~. You can ~. を練習して発音することができてい	Where do you want to go? I want to ~. You can ~. が発音できていない。
	○理想の国を紹介したり、自分がしたいことを伝えたりできる。	あらかじめ考えておいた表現だけなく、おすすめポイントや自分がしたいことを活動の中で場に応じて考え、付け加えて言うことができてい	あらかじめ考えておいた理想的の国を紹介する表現や自分がしたいことを伝える表現を活動の中で使い、相手の答えに対してさらに一言返すことができている。	あらかじめ考えておいた理想的の国を紹介する表現や自分がしたいことを伝える表現を活動の中で使うことができている。	理想の国を紹介する表現や自分がしたいことを表す表現が活動の中で使えていない。
文化	○いろいろな国の有名なものや場所などを知って日本との違いや共通点、それぞれの国によさなどを見つけることができる。	日本との違いや共通点それぞれの国によさを見つけている。	日本との違いや共通点を見つけている。	さまざまな国にある有名なものや場所を知ることができている。	他国の有名なものや場所に興味関心をもっていない。

また、振り返りシートは、目標を明確に認識させ、1学期よりも児童一人一人が自分のがんばりをより主体的に評価できるように質問項目は各時のループリックに対応したものにした（図5）。さらに、この単元では、単元全体の具体的な達成目標を提示しただけでなく、毎時の活動を行う際、ループリックと第1時に児童が定めた各自の目標を提示し、児童がどこを目指すのかを明確にさせてから活動に入った。

### ウ 実践を終えて

外国語活動においてループリックを使用するのは初めてだったが、第1時の活動の最初にループリックを示したときには、「自分はSをめざす」、「Aをめざす」という声が児童から挙がった。具体的な指標があることで児童は毎時の目標がより具体的になり、活動への意欲を高めることにつながったと推察する。

第1時の活動は、「世界遺産」に焦点を当て、指導者が選んだ日本を含む20カ国の世界遺産や、その国で有名なもの、場所などの映像を見せながら進めていった。ループリックにより、目標と活動を具体的に示されていたので、どのような活動をするのか見通しをもち、自分が目指すとこ

ろをはっきりさせた上で活動に臨む様子が見られた。指導者も、ルーブリックを意識して、日本と他国の文化の違いや共通点、それぞれの国によさを見付けられるように活動を進めた。しかし、活動の中で、「初めて知ったことがたくさんあっておもしろいけど、日本との違いってどう考えたらいいのかな。」、「日本との違いは何となく分かるけど、共通点って何だろう。」、「よさまではわからないな。」といった意見が児童の中から出された。本時の活動で使用したプレゼンテーションの映像と指導者の働きかけだけでは、児童が自分の目標を十分に達成できたと実感するまでに至らなかったと感じた。振り返りシートでは、活動前に目指していた達成目標までは到達できていないと感じた児童もあり、自己評価がSという児童が0人という結果だった（表6）。

外国語学習 ふり返りシート				
Name ( )				
① 今日の外國語の学習は楽しかったですか。ちかいものに口をつけてその理由を書きましょう。 とても楽しかった 楽しかった あまり楽しくなかった 楽しくなかった (選択)				
② 今日の学習をふりかえって書きましょう。 いろいろな国の有名なものや場所などを使って書きなさい。				
達成したいこと	S	A	B	C
支「いろいろな国の有名なものや場所などを知って、日本との違いや共通点をそれぞれの国によさなどを見つけながら、それだけでもうかることができる。」	日本との違いや共通点を見つけている。	日本との違いや共通点を見つけていいる。	さほど見つけている。	なかなか見つけている。
今日の自分は <input type="checkbox"/>		自分の努力目標の達成度は <input type="checkbox"/> %		
その他の				

図5 第1時振り返りシート

表6 ルーブリックに沿った児童の自己評価の推移

時	S	A	B	C
第1時	0人	19人	6人	0人
第2時	6人	17人	2人	0人
第3時	13人	10人	2人	0人
第4時	14人	11人	0人	0人
第6時	13人	12人	0人	0人

※第5時は、第6時に向けての準備と練習のため、振り返りは行わなかった。

第1時の活動は、児童に示したルーブリックの基準に対して不十分であったと考え、児童がより達成感をもつことができるよう、第2時以降は当初立てていた具体的活動案を見直しながら活動を進めることにし、単元計画を修正した（表7）。

表7 本单元のねらい（修正後）

第2時～第6時までの活動内容(概要)	
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国名</li> <li>・“Where do you want to go?” “I want to go to.” の表現を知りチャンツで練習する。</li> <li>・PASS Game をする。</li> </ul>
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の表現を復習する。</li> <li>・「自分のこだわりでカードを集めよう」の活動をする。</li> </ul>
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“I want to ~.” を使った「～したい。」の表現を知り、練習する。</li> <li>・「同じ国に行きたい人は誰？」の活動をする。</li> <li>・「国カードをそろえよう」の活動をする。</li> </ul>
第5時	・グループに分かれ、「自分たちの理想の国」をつくり、既習の表現を使って紹介する練習をする。
第6時	・「理想の国」を紹介し、聞き手のリクエストに応えながら、自分たちの国に来てもらえるようアピールする。

第2時でも活動前の達成目標を低く設定している児童もあったが、活動が進んでいくうちに、

自身の目標を念頭において活動に馴染むようになり、第4時、第6時では全員がSまたはAまで達成できたと自己評価をするようになった。

ループリックによる自己評価と記述を併用したことで、児童が主体的に振り返ることができた例として、2人の児童の自己評価を示す（表8）。

表8 本単元の振り返りシートの主な記述内容

児童	項目	第1時に立てた個人目標	ループリック・個人目標達成度	理由
H児	表現	・よく聞く。ジェスチャーもつけて表現を練習してみる。	S・75% (第2時)	もう少し抑揚をつけたら 100%になる。
			S・80% (第3時)	抑揚はつけられなかつたけど前より楽しかった。
			S・40% (第4時)	少し授業に集中できなかつたから。
I児	表現	・みんなの発音を聞いて、できない発音を直す。 ・表情や表現で伝えやすくする。	A・70% (第2時)	A L Tの発音を聞き取って、まねて発音できていたと思うから。違う国の言葉だから、よく聞き取れた。
	伝え合い	・リアクションを大きくしたりわかりやすくしたりする。 ・はずかしがらずに自分から進んで話しかける。 ・ゆっくり話してわかりやすくする。	S・90% (第6時)	反応もできていると思うし、表情も豊かになっていたと思う。これをやることで、大きな声で話せ、自信をもてた。

H児はループリックの達成度は3時間ともSであるが、個人目標の達成度はばらつきが見られた。第2時では次回に向けての改善点に気付き、「抑揚をつける」という自身の新たな課題をもつて第3時に臨んだ。また第4時では達成度Sの「適度な速さで発音」はできたものの、自分としては集中力に欠けたと評価している。それぞれの時間において、自分の活動に振り返り、よかつた点や改善したい点を記述し、次回の活動につなげようとしている様子がうかがえる。

またI児は、他の教科等においても比較的発言量が少なく、外国語活動の時間も自分から進んで話しかけることに消極的であった児童である。この児童が、単元の活動開始前に自分の課題や努力目標、自分の目指す姿を明確にして活動に臨み、単元の全活動終了時にSと自己評価ができ、「自信をもてた」と記述できたことは、本単元での取組の有効性を示す一つの結果となったと考える。

## (2) 奈良市立伏見南小学校の取組

### ア 昨年度までの自己評価について

外国語活動において、児童に活動の終了時に自己の活動を振り返らせるために、振り返りシートを使用してきた。本研究を始める以前の外国語活動において児童に振り返りをさせると、「アクティビティが楽しかった。」など、外国語活動の内容の1つである、コミュニケーションを図る楽しさについての記述は多いものの、各単元で学ぶ表現に慣れ親しむことによって何ができる

ようになったかを振り返る児童は少なかった。

## イ 今年度の実践

### (7) 課題の整理

外国語活動における児童の実態を調査するために、6月に質問紙調査を実施した。その結果、「英語の授業の最後に、学習内容をふりかえる活動をよく行っていると思う。」という質問項目に対し、5件法で「そう思う（5点）」、「どちらかといえばそう思う（4点）」といった肯定的回答を示した児童は42%であった。前年度の外国語活動において、児童に対し単元のめあてや本時のねらいなどの提示を十分に行ってこなかったこともあり、本研究を進めていく中で振り返り活動を工夫し、外国語活動に対する児童の意欲や主体性を高めることが課題であると考えた。

### (1) 1学期の実践

#### a 目標の明確化

児童が主体的に外国語を学ぶために、その単元に入る際、児童に学習目標を明確に提示することが大切だと考えた。そこで、授業実践において、第1時の導入でこの単元の最後にどのような活動を行うのか、また、その活動をゴールとして各時間でどのようなことを学ぶのかを児童に口頭で伝えることにした。

以下に記す授業実践では、本校に新しい外国語指導助手（以下、「ALT」という。）が来る時期だったということもあり、「最終時にALTに英語で自己紹介しよう。」という目標を児童に示し、それに向けてペアワーク等で使用表現を練習したり、自己紹介カード（図6）の作成を行ったりした。

#### b 授業内容

○使用教材 Hi, friends! 2 (文部科学省)

○單 元 Lesson 3 I can swim.

○単元目標

- ・積極的に友達に「できること」を尋ねたり、自分の「できること」や「できないこと」を答えたりしようとする。
- ・「できる」「できない」という表現に慣れ親しむ。
- ・言語や人、それぞれに違いがあることを知る。

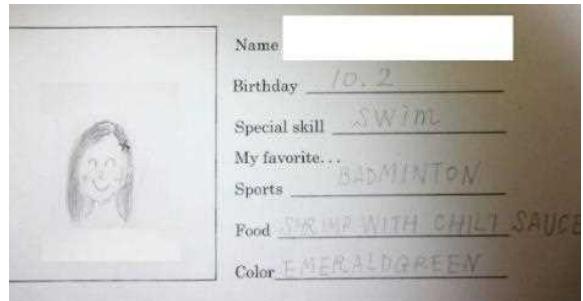


図6 自己紹介カード

表9 本単元のねらい

時	単元名 : Hi, friends! 2 Lesson 3 I can swim. (2015年6月)
1	単元のねらいを知る。「ALTに自己紹介しよう。」 【活動】「ジェスチャーゲーム」 指導者のする動作を英語で言い当てる。
2	「友達とインタビューし合おう」 【活動】「インタビューゲーム」 何ができるかを友達に聞き、bingoを作る。
3	「自己紹介文を考えよう。」 【活動】・「Who am I? クイズ」 インタビューシートをもとにしたクイズに答える。 ・「自己紹介文を考えよう」 自己紹介カードを書く。
4	「ALTに自己紹介しよう。」

	<p>【活動】 ALTはあらかじめ児童が書いた自己紹介カードを持ち、児童の自己紹介を聞く。</p> <p>各自の自己紹介が終わったら、「あなたができること」を尋ね、児童が“<i>I can~.</i>”という表現を使ってその質問に答える。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### c 単元の活動を終えて

この単元では、児童に単元全体の見通しをもって取り組ませるために、最終的にどのような活動を行うのか、またその活動をゴールとして各時間にどんなことを学ぶのかを児童に意識させるようにした。そのことにより、児童はALTに英語で自己紹介するという活動に向け、自分の言いたいことをどう表現したらよいのかを自主的に調べたり友達に聞いたり、それによって得た知識を自己紹介に取り入れたり、ペアで自己紹介の練習をしたりしながら、より主体的に授業に参加する様子が見られた。活動後、単元を通しての振り返りシート（図7）での児童の主な記述を以下に示す。

- ・はじめ、先生から英語で自己紹介するということを言われたときに、私は外国語で自己紹介するのなんて絶対できないなと思いました。でも、友達と練習をして、できるようになって、ALTの先生に聞いてもらえたとき、自分も英語で自己紹介できるんだと嬉しく思いました。
- ・うまく自己紹介ができてよかったです。僕は、空手ができるなどを紹介しようと先生に空手って英語で何と言うのか聞きに言ったら“KARATE”だと教えてもらって、日本語が英語にもなっているものもたくさんあることに驚きました。
- ・教えてもらった表現を使って自己紹介できて楽しかった。

ALTの質間に答えようとして、英語を使って自己紹介するだけでなく、英語で意思疎通ができたことに満足感を得たことを示す下線部のような記述が見られた。しかし、何を学んだか、何を身に付けたかを明確に理解している記述は、ほぼ見られなかった。

### (4) 自己評価の工夫

#### a ループリックの作成

児童の学習意欲を高めるためには、個々の児童に活動の見通しや単元の目標を具体的にイメージさせることができることが当然であるが、それらを一層具体的に意識させるためには、振り返りシートを用いた自己評価の工夫が必要であった。そこで、児童が到達レベルを認識し、より主体的に活動に取り組むことができる自己評価方法として、ループリックを振り返りシートに取り入れることにした。

授業で用いたループリックでは「達成したいこと」を四つの評価規準を設定し、成功の度合いを表すSからCまでの達成度と、それぞれの達成度における具体的な児童の姿を示した。ループリックによる自己評価を積み重ねていくことにより、児童は自分の成長の様子を認識するとともに自己評価能力を高めることができるのではないかとも考えた。

#### b ループリックと記述式の併用

2学期から用いた振り返りシートには、ループリックに加え、今までどおり記述欄も設けた。

### 外国語活動ふりかえりシート

( ) 振名前( )

①今日の授業はどうでしたか？

楽しかった[ 5 · 4 · 3 · 2 · 1 ]楽しくなかった

②今日の授業を振り返っての感想を書きましょう。

図7 振り返りシート

ループリックと記述式の振り返りを併用することによって、ループリックだけでは測れない自己評価を記述式で補い、より細やかな自己評価が行えると考えた。

振り返りシートは毎時間回収し、児童の記述に対して指導者が励ましや気付きを促すようなコメントを記し、次の時間に返却することにした。返却された振り返りシートは、児童にファイリングさせ、授業中いつでもシートを見直せるようにした。

## (I) 2学期の実践

### a 目標の明確化

1学期の授業実践と同様、第1時にこの単元では最終的にどのような言語活動を行うのかを児童に伝えた。また、最終時に学習活動のゴールとして行う「班ごとにみんなの前で道案内のロールプレイングをしよう。」という活動を伝えるとともに、各時間にどんなことを学ぶのかについても明確に示した。その上で、ループリックから単元の自己目標を立てさせるとともに、第2時から毎回自己評価させることとした。

### b 授業内容

○使用教材 Hi, friends! 2 (文部科学省)

○單 元 Lesson 4 Turn right.

- 単元の目標
- ・積極的に目的地への行き方を尋ねたり、道案内したりしようとする。
  - ・目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。
  - ・英語と日本語とでは、建物の言い方が違うことに気付く。

表 10 本単元のねらい

時	単元名 : Hi, friends! 2 Lesson 4 Turn right. (2015年10月)
1	<ul style="list-style-type: none"><li>・単元のめあてを知る。「道案内のロールプレイングをしよう。」</li><li>・町中にある様々な建物などの言い方を知り、日本語との違いに気付くとともに、道案内の言い方を知る。</li></ul>
2	<ul style="list-style-type: none"><li>・建物などの言い方や、目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。</li></ul>
3	<ul style="list-style-type: none"><li>・目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。</li></ul>
4	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分たちの案内したい町を模造紙に描く。</li><li>・第5時の活動に向け、各班で練習をする。</li></ul>
5	<ul style="list-style-type: none"><li>・「道案内のロールプレイングをしよう。」 各班がロールプレイングを発表する。</li></ul>

### c ループリックの活用

本研究では自己評価の工夫により児童の学習意欲がいかに向上するかをねらいとしているので、まず第1時に本単元のループリックを児童に提示した。提示後、その単元で何ができるようになりたいかを自らの言葉で記述できるようにした。そのため、ループリックの右隣に各項目について記述欄を設ける工夫をした(図8)。

第1時には自己目標を書かせ、第2時から第4時には、その時間のねらいを示す部分のみを提示し、児童が目指す目標を明確にしながら児童に活動させるようにした。また、それぞれの時間の振り返りではその時間のねらいを示すループリックに合わせて自己評価させるようにした(図9)。そうすることによって、各時のねらいや目標を意識させて振り返りができるのではないかと考えた。

また、児童は第1時でループリック全体を見て各項目の自己目標を立てているので、第2時以

降では、自己目標を意識しながら授業に取り組むことができ、振り返りシートにも自己目標に触れた記述が多く見られた。単元における最終の第5時では、再度単元のループリック全体を示した振り返りシート（図10）で自己評価させた。児童はファイルに綴じた過去の振り返りシートを見ながら、単元の自己評価を行った。

英語について	英語	△	日語	△
進んで会話をしようとする	あいさつの言葉を大切にして、表情に気をつけて伝え合いができるといふ。段階とともに進んで話したり、反応をしながら聞くたりをしている。	できるだけ多くの人に自分が誰で話しかけたり、相手の顔を見て、うなづくなどの反応をしながら聞いてたりしている。	作った表現を使って話しかけたり答えたたりできている。	自分で進んで話しかけることができていない。
この單元で使う英語の表現を練習して発音できる。	Where is the ~? Turn left. Turn right. の音の特徴をよく聞き取り、それらを組ねて適度な速さで発音することができている。	Where is the ~? Turn left. Turn right. の音の特徴をよく聞き取り、それらを組ねて発音することができている。	Where is the ~? Turn left. Turn right. を練習して発音することができている。	Where is the ~? Turn left. Turn right. 発音することができない。
相手が誰本物か、自分が何をしたいかなどを相手に伝えたり、すわられたところまで進塗りができる。	あらかじめ考えておいた表現だけでなく、活動の中で場に応じて考え方、より相手と一緒にユーモア感覚なども加えて書うことができている。	あらかじめ考えておいた表現を覚え、活動の中で使い、相手と会話をができる。	あらかじめ考えておいた表現を組みながら活動の中で使い、相手と会話をができる。	活動の中で、防ねたり聞いたりすることができない。
いろいろな道具などの外語の言い方を学び、日本語との違いや共通点などをみつけることができる。	日本語との言葉の違いや発音の違いや共通点を見つけている。	日本語との言葉の違いや共通点を見つけている。	日本語との違いを見つけている。	違いや共通点を見つけることができない。

図8 ルーブリックを見た後での、個々の児童の目標（第1時）

## 図9 振り返りシート

外国語活動ふりかえりシート				
( ) 課 程 ( )				
感想を綴り直して				
英語	日本語	英語	日本語	英語
1. おもな会話	1. おもな会話	2. おもな会話	2. おもな会話	3. おもな会話
2. おもな表現	2. おもな表現	3. おもな表現	3. おもな表現	4. おもな表現
3. おもな歌	3. おもな歌	4. おもな歌	4. おもな歌	5. おもな歌
4. おもな絵本	4. おもな絵本	5. おもな絵本	5. おもな絵本	6. おもな絵本
5. おもなゲーム	5. おもなゲーム	6. おもなゲーム	6. おもなゲーム	7. おもなゲーム
■ おもな評議 ( ) 内 などなど				

## 図 10 振り返りシート (単元全体)

#### d 単元の活動を終えて

「道案内のロールプレイングをしよう。」という活動は、児童が思考、判断しながら協働して模造紙に町づくりをし、それに対する適切な英語表現を使いながらスキットを作成していく体験的活動であった。そのような活動の中で、これまでに学習した得た知識をうまく活用することができるかや、相手意識をもちながら発表できるかということに、児童の意識を集中させようと考えた。

## ウ 實踐を終えて

実践後の振り返りシートには、ループリックを提示することで、毎時の活動が単元の目標につながっていることを意識させることができ、児童の主体的な学習姿勢に結びついたと考えられる

記述が見られた。振り返りシートでの主な記述を以下に示す。

- ・懸命に友達に教えてもらいながら、英語を話せるようになった。次は前に習った英語も使ってどんどん話せるようにしたい。これからはもっと相手を意識して話したいです。
- ・音の特徴を聞いてまねて発音して、適度な速さで言えた。班で協力してよい発表ができたし、臨機応変に対応できた。また、表情にも気をつけて伝え合いができた。
- ・言い方も自分で工夫し、最後に「Here is the ~」と入れて言うことができた。今度は、もっと状況に応じて会話をしたい。

ループリックを取り入れて以降、下線部のような自ら学ぼうとする意欲が感じられる記述が見られるようになった。

また、児童が自己評価する際、「自分の達成できたことがループリックに書かれていない場合はどうすればいいですか。」等の質問もあり、その場合は記述欄のほうに達成できた内容を書かせた。このように、ループリックで測れない部分は、記述式を併用することで補完することができた。

続いて、実践によって特に変容が見られた児童の様子について以下の通り述べる。

### [A児の変容]

A児は、外国語活動の授業では、机にうつ伏せてしまうなどの様子が見られ、授業に参加することも難しい児童であった。

しかし、1学期の取組の中でのALTに自己紹介をするという活動において、趣味の剣道を紹介しようと、自分は日本のあるスポーツが得意だということを懸命にALTに伝えた。これを受け ALTは、A児に更にそのスポーツに関する質問をした。A児は自分の英語でALTに興味・関心をもってもらえたことにとても喜びを感じ、授業後もALTに積極的に話しかけていた。

また、振り返りシートにループリックを取り入れた2学期以降、始めは目標を低く設定していたが、授業が進むにつれて、ループリックを見て、どう頑張っていくかについての視点が明確になったようで、自己評価が高くなっていた。また、2学期以降での毎時の振り返りシートには、全ての時間において最高の自己評価をしており、「友達と笑顔で話せた。ジェスチャーをつけて会話すると分かりやすかった。」などの記述が見られた。特に、ALTへの自己紹介の時間の振り返りシートには、「外国人に剣道を知つてもらうのに英語が使えてうれしかった。英語を話せるのが楽しく思えた。」と書いてあった。

後述の質問紙調査においても、6月には否定的に回答していた「英語の授業は好きだ。」という項目に、11月時には「そう思う」と回答するようになった。

### [B児の変容]

B児は真面目でこつこつと努力を重ねられる児童である。しかし、学習内容を理解するのに時間がかかることがあった。

B児に変化が見られたようになったのは、ループリックによる自己評価を取り入れた2学期以降である。第1時で単元全体のループリックを見た後、「表現を大切にしながら進んで会話してSを目指したい。そして会話でパッと反応できるようにしたい。」という目標を記述するなど、見通しをもって授業に取り組む様子が見られ、学習内容に対する理解も速くなっていた。理解が深まることにより、より積極的に活動に取り組む姿が見られるようになり、取り組みの最初では低い評価であった自己評価は後半ではAが多くなった。また、「積極的に会話をすることができたし、友達に教えてあげることもできた。」というその時間で達成できたことを明確に認識していること

を示す記述があった。

## 5 考察

### (1) 質問紙調査の分析

児童の意識の変容を測定するため、2校の対象児童に1学期（6月）と2学期（11月）に外国语活動に関する28項目による質問紙調査を行った。各質問項目については、統計的処理を行うために、5件法を採用した。集計の際には、それぞれの回答について肯定的な回答から順番に「そう思う」を5点、「どちらかといえばそう思う」を4点、「どちらともいえない」を3点、「どちらかといえばそう思わない」を2点、「そう思わない」を1点と、1点刻みで高得点のものほど肯定的であることを示すように得点化した。分析には、IBM社のSPSS21を用いた。

表11 Wilcoxonの符号付き順位検定の結果

質問項目	6月		11月		平均値の 増加分	Z値		
	N	平均値	標準 偏差	N	平均値			
1 授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる。	48	3.56	1.07	47	3.96	1.12	0.39	-1.94
2 もつとうまい言い方や別の考え方はないかと考える。	48	3.83	0.97	47	4.02	0.90	0.19	-1.39
3 毎日、明るく元気に生活している。	48	4.44	0.97	48	4.65	0.60	0.21	-1.30
4 よくわからないことは、わかるまで調べたい。	48	4.10	0.86	48	3.96	0.90	-0.15	-0.87
5 いろいろなことを学ぶことは楽しい。	48	4.38	0.96	48	4.42	0.94	0.04	-0.21
6 興味のあることは調べずにはいられない。	48	3.54	1.27	47	3.91	1.10	0.37	-1.45
7 英語の授業は好きだ。	48	4.19	1.18	47	4.30	0.93	0.11	-0.29
8 自分がもっている能力をじゅうぶんに発揮したい。	48	4.25	0.96	48	4.35	0.84	0.10	-0.49
9 社会のために役立つような人になりたい。	48	4.56	0.71	48	4.65	0.76	0.08	-0.99
10 勉強面では友だちからたよられていると思う。	47	2.89	1.09	48	2.94	1.10	0.04	-0.55
11 授業では友だちと協力して学ぶことは少ない。 (逆転)	51	3.51	1.24	48	3.92	1.16	0.41	-1.58
12 先生は学習のことについてほめてくれる。	48	3.83	0.97	47	4.13	0.97	0.29	-2.01 *
13 英語の授業のはじめに、その時間のめあてを理解している。	46	3.83	1.12	48	4.27	0.82	0.44	-2.37 *
14 毎日の生活が充実していると感じている。	48	4.10	1.06	48	4.44	0.80	0.33	-2.27 *
15 自信を持って行動したり発言できるようになりたい。	48	4.63	0.73	48	4.79	0.62	0.17	-1.59
16 授業では友だちと話すことで、より深く考えることができる。	48	3.94	1.10	47	4.53	0.62	0.59	-3.33 **
17 ALTと英語で話すことは楽しい。	48	4.56	0.74	48	4.35	0.96	-0.21	-1.57
18 学校では落ち着いて授業を受けてている。	48	4.25	0.76	48	3.83	1.17	-0.42	-2.54 *
19 失敗しても学ぶことはおもしろい。	48	3.90	1.28	48	4.13	0.98	0.23	-1.21
20 英語の授業の最後に、学習内容をふりかえる活動をよく行っていると思う。	48	3.65	1.04	48	4.44	0.90	0.79	-3.46 **
21 授業では友だちに教えたり、教わったりすることも多い。	48	3.83	1.15	48	4.46	0.80	0.63	-2.89 **
22 わからないことがあると、いろいろな方法で調べている。	47	3.51	1.14	48	3.75	0.93	0.24	-0.85
23 自分は勉強ができるほうだと思う。	48	2.94	1.26	47	3.06	1.11	0.13	-0.01
24 英語を使えるようになりたい。	48	4.71	0.87	48	4.79	0.50	0.08	-0.59
25 疑問やふしげに思うことは、わかるまで調べたい。	48	3.73	1.11	48	3.96	1.01	0.23	-1.35
26 英語の学習は大切だ。	48	4.75	0.53	48	4.75	0.48	0.00	0.00
27 クラスは発言しやすい雰囲気である。	48	3.92	1.20	48	4.35	0.86	0.44	-2.51 *
28 思いやりのある人になりたい。	48	4.79	0.50	48	4.92	0.28	0.13	-1.61

\*\*p<.01 \*p<.05

取組の前後に実施した同項目の調査の平均値の差が統計的に有意かを確かめるために有意水準5%で（両側検定の）対応のあるWilcoxonの符号付き順位検定を行ったところ、次の8つの質問

項目においていずれもp<.05で有意な差が見られた（表11）。

- 12 先生は学習のことについてほめてくれる。
- 13 英語の授業のはじめに、その時間のめあてを理解している。
- 14 毎日の生活が充実していると感じている。
- 16 授業では友だちと話すことで、より深く考えることができる。
- 18 学校では落ち着いて授業を受けている。
- 20 英語の授業の最後に、学習内容をふりかえる活動をよく行っていると思う。
- 21 授業では友だちに教えたり、教わったりすることも多い。
- 27 クラスは発言しやすい雰囲気である。

児童が目標を理解した上で振り返り活動を行っていたかどうかを確認するため、質問項目「13 英語の授業のはじめに、その時間のめあてを理解している。」と「20英語の授業の最後に、学習内容をふりかえる活動をよく行っていると思う。」に着目した。この2つの項目において、児童の回答の平均値が取組後に上昇したことは、1学期より2学期の方が、児童自身が学んでいることを意識化し、確認していく作業を肯定的にとらえていることを意味している。

また、質問項目「12先生は学習のことについてほめてくれる。」の平均値が上昇していることは、指導者が振り返りシートへの肯定的なコメントや声かけを継続的に行った効果の現れと読み取れる。さらに「16授業では友だちと話すことで、より深く考えることができる。」「21授業では友だちに教えたり、教わったりすることも多い。」の2項目の平均値が上昇していることは、目標の明確化により、個々の児童が主体的に言語活動に取り組む姿勢が生まれ、それが思考の深まりや協働的な学びに発展したからであると考えられる。

さらに細かく児童の変容について分析するために、質問項目「7英語の授業は好きだ。」に対し、5件法で1学期に1と回答したが、2学期に5と回答した児童に着目した。この児童は、質問項目「16授業では友だちと話すことで、より深く考えることができる。」「19失敗しても学ぶことはおもしろい。」「24英語を使えるようになりたい。」「25疑問やふしげに思うことは、わかるまで調べたい。」の四つの質問項目においても、5件法で1学期に1と回答したが、2学期に5と回答した。この児童は1学期の振り返りシートにおいて「自信をもって（英語を）言えない。」「すらすら（英語を）言えない。」などの記述が見られたが、2学期になってループリックを導入した後の振り返りシートでは、「自己評価はSです。なぜなら、すべてできたからです。進んで会話しようとするところで、表現を大切にできたり、（相手の言ったことに）反応もできました。」と記述している。これらのこととは、単元の目標をきちんと提示し、ループリックで目標を明確にしたことが、この児童の主体性の向上につながったことを示している。また、ループリックと記述式を併用した振り返りシートにより、この児童は自分の考えや意見を言語化することができ、自分をより客観的に分析できたのではないかと考える。

## (2) 成果

これまでの取組を通して得られた成果を次の3点に整理した。

### ○ 個々の児童に単元の見通しをより具体的にもたせることで児童の活動への意欲が高まった。

今回の取組では、「この単元でどのような表現を使って、どのような活動を行うことを目指して活動を進めていくのか」をはっきりと児童に示すようにした。このことにより、児童に「この活動をするためにはこの表現を使えるようになることが必要である。」等の認識を明確にもたせるこ

とができ、活動への意欲を高めることにつなげられたと考えられる。

### ○ 個々の児童に毎時の活動目標を具体的にもたせることが、児童に自信をつけさせることや活動への意欲を喚起させることにつながった。

目標をもつことで児童の活動は、より主体的なものになった。ALTの発音をしっかりと聞いてまねをしたいという目標を掲げた児童は、懸命に聞き取ったALTの発音を再現してみようとしていた。友だちとのやりとりの中で、表情やジェスチャーなどの非言語コミュニケーション手段をもっと取り入れていきたいという目標を掲げた児童は、活動の中でジェスチャーを使って表現の幅を広げることを意識して活動を行っていた。こういった児童の様子は、活動後に記入する「振り返りシート」の中にはっきりと表れていた。具体的な活動目標をもち、それを意識して活動することで、児童は活動の中で何ができるようになったのかを明確化することができた。このことは、児童に自信をつけさせ、活動への意欲をさらに喚起させることにつながると考える。

### ○ 自己評価方法の改善により、児童がより主体的に自分を評価することを通して、より高い目標をもつようになった。

今回の取組では、児童が立てた具体的な活動目標に沿って自己評価できるよう「振り返りシートへの記述」について工夫や改善を行ってきた。その結果、11月の授業での振り返りシートには「この活動の中で何ができるようになったのか」や「自分がこの活動に取り組む姿勢はどうであったか」「もっとこうしたい」など、自らの活動について具体的に記述した内容が見られた。このことは、ループリックと記述式を併用した自己評価により、児童が次の授業に向けて明確な目標がもてるようになったことを示している。また、本研究を始める以前は、振り返りで前の時間に何をしたのか覚えていない児童も多かったが、研究後は、各自がファイルに綴じた目標カードや振り返りシートを根拠にすることことができたので、児童にとっては自己評価がしやすいようであった。このように、児童が単元の各時間の振り返りを読み返して、自己の伸長の過程をたどることが次への意欲を喚起し、主体的に学習に取り組もうとする児童の姿勢を育んだ。

また、ループリックと記述式を併用したことによって、次のような発見があった。ループリックでの自己評価が高いにもかかわらず、記述部分で「あまり満足していない。」などの記述をした児童もいた。それらの児童は自身の目標がループリックで示された評価基準よりも高いところにあると自己分析したと見取ることができる。そのような児童には、指導者が励ましのコメントを書いて返却するなど、肯定的な働きかけをした結果、児童は具体的なさらなる高い自己目標を記述するようになった。栃木県総合教育センター(2010)は、「『先生は自分に期待をかけてくれている。』、『先生は自分の良いところを見てくれている。』と思えることが児童生徒の学習意欲の土台となる安心感につながる。」と述べている。さらに、ループリックだけでなく記述欄を設けたことで、児童の記述に対し気付きを促したり励ましたりするコメントを書くなどの肯定的な働きかけをしたことにより、安心して振り返り活動を行っていた。

### (3) 今後の課題

振り返りシートは、単に自己の到達度を確認するためだけのものではない。振り返るポイントを具体的に示すことを通して、自己に対する分析的視点を伝えることで、自らの思考の変容を意識させ、児童のメタ認知の能力を高める可能性を秘めている。こういった意味からも、自己評価を工夫し、学習者の思考を可視化することは大切であると考える。子どもの思考の変容が言語化され、可視化できれば、指導する教員にとっても、それに沿って次の働きかけを構想することが

可能になる。

本論文では、外国語活動を進める上で児童の学習意欲を高めるための取組として、振り返りシートを工夫し、教員が児童に肯定的な働きかけを行うことによって、児童がどう変容していくのかを、2つの小学校における外国語活動の実践について検討してきた。今回の取組で、自己評価を工夫したことによって、主体的に英語を話し、協働しながら活動に取り組む児童の姿が見られるようになったことから、その有効性は示された。他の教科等においても児童による自己評価が学校内で系統的に取り入れられれば、児童にとって自己評価を行いやすい状況が生まれ、自主的に学ぶ態度をはぐくむことができると思われる。

今後の課題としては、ループリックに示す目標設定の方法について検討する必要がある。例えば指導者と児童が単元の目標を話し合う時間を取り、そこから出てきた目標をループリックの目標として設定する取組を行えば、児童が一層意欲的に活動に取り組むことができた可能性があるとも考えられる。今後、児童にとってより効果的な振り返りシートの工夫が望まれる。

## 参考・引用文献

- (1) 文部科学省（平成20年）『小学校学習指導要領』東京書籍
- (2) 文部科学省（平成20年）『小学校学習指導要領解説総則編』東洋館出版社 p.69
- (3) 国立教育政策研究所（平成23年）「小学校外国語活動における 評価方法等の工夫のための参考資料」<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html> p.9
- (4) 寺嶋浩介、林朋美（2006）「ループリックの構築により自己評価を促す問題解決学習の開発」『京都大学高等教育研究』第12号 p.65
- (5) 田中耕治（2008）「学力調査と教育評価研究」『教育學研究』第75巻 第2号 一般社団法人日本教育学会 p.150
- (6) 文部科学省（平成24年）『Hi, friends! 2』教師用指導書
- (7) 奈良県小学校教科等研究会 外国語活動部会『平成27年度 奈良県小学校外国語活動研究会研究紀要』
- (8) 栃木県総合教育センター（2010）『学ぶ意欲をはぐくむ』 p.6